

国指定史跡 二子塚古墳の調査

(ふたごづかこふん)

二子塚古墳第3・4次調査 発掘調査公開資料
太子町教育委員会

1. 調査の経緯

太子町では、史跡整備事業に伴い平成28年度から現在までに4次の発掘調査を行いました。第4次となる本年度の調査は、平成31年度に行った第3次調査で明らかにできなかった東墳丘盛土と石室墓道の関係を確認するとともに石室西側の大型石材の状況確認も行いました。結果、墳丘の築造過程と石室墓道の規模と構造について、新たな知見を得ることができました。

この度、本年度の成果を公表するに際し、調査結果を詳細に検証することができた平成31年度の第3次調査の成果も合わせて公開することとしました。

表1 二子塚古墳のこれまでの発掘調査

年度	回数	主な調査目的
平成28年度(2016)	1次	墳丘の範囲、西墳丘盛土の状況、東石室床面の状況の確認
平成29年度(2017)	2次	東側溝の範囲、北側溝の範囲、東墳丘盛土の状況の確認
平成31年度(2019)	3次	東墳丘石室閉塞石と墓道の規模と構造、西墳丘北東隅角部の状況の確認
令和2年度(2020)	4次	3次で確認できなかった東墳丘石室墓道の規模と構造及び盛土の状況、大型石材の状況の確認

発掘調査成果の公開について

公開にあたり2月20日(土)に現地見学会を予定していましたが、2月7日(日)に新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた緊急事態宣言が延長されたことを受けて、中止いたしました。これに伴い、国民共有の貴重な文化財である二子塚古墳の調査成果を、少しでも多くの皆さんに知っていただくために、町立竹内街道歴史資料館等でパネル展示、資料映像の配信にて公開いたします。

★写真パネル展示

太子町役場 町民ホール 3月9日(火)～29日(月)

竹内街道歴史資料館 第2展示室 3月9日(火)～5月9日(日)

★資料映像配信

太子町ホームページ、YouTube、全国遺跡報告総覧「文化財動画ライブラリー」
公開日 3月9日(火)から

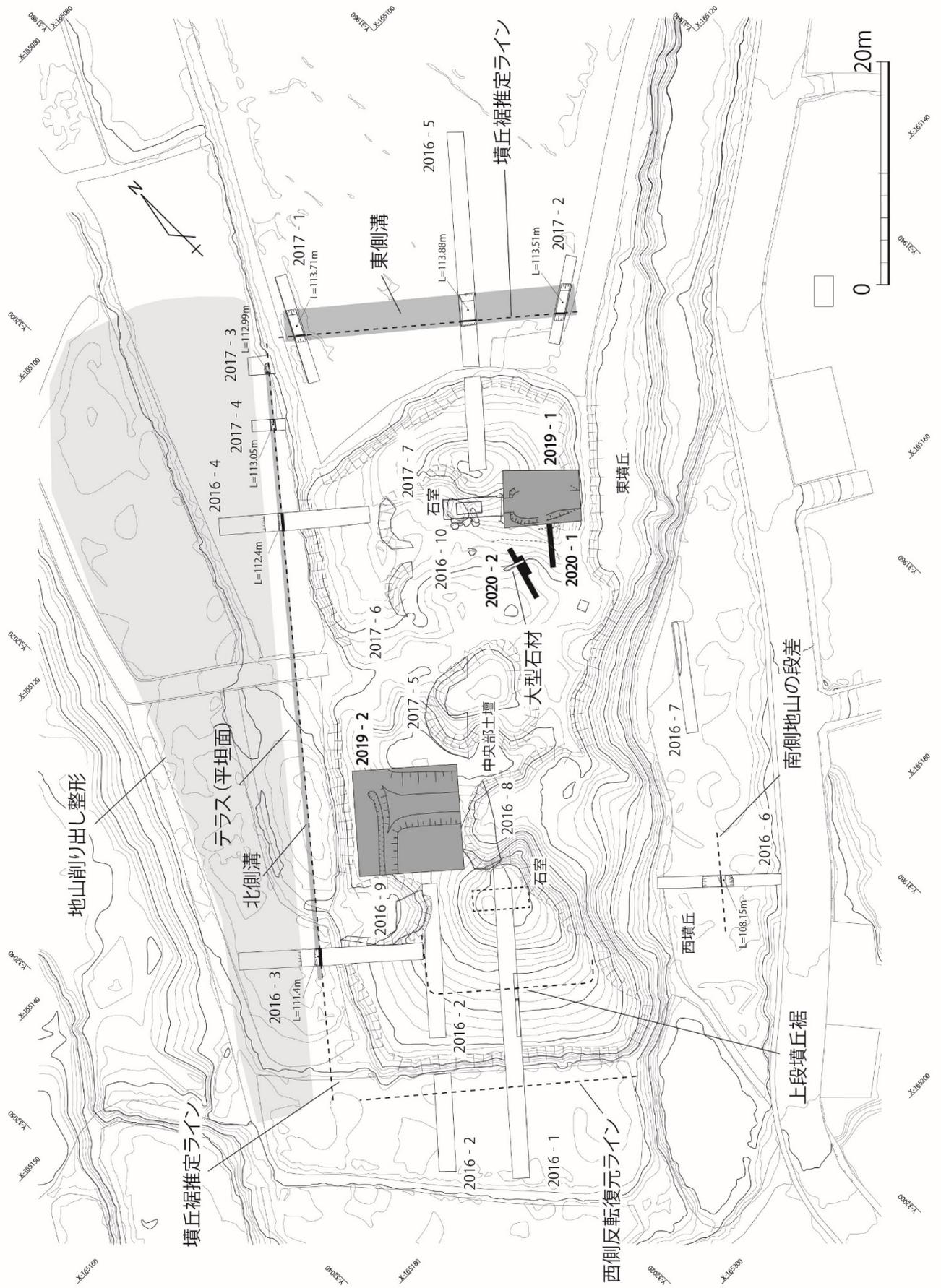


図1 二子塚古墳調査区位置図 (2016、2017、2019、2020年度)

2. 二子塚古墳の概要とこれまでの調査

国指定史跡二子塚古墳は、『河内名所図会』にも紹介されるなど、江戸時代から知られており、大正4年(1915)には東墳丘石室、大正6年(1917)に西墳丘石室が開墾により発見されました。この時、考古学者の梅原末治は現地を視察し、盛土を削り取られ天井石が取り除かれた石室の中に石棺を発見します。石室南側はすでに破壊され、石棺の蓋はゆがめられ、南側小口に盗掘坑が開けられ、棺内に遺物は残っていませんでした。その後も開墾の危機にさらされ、昭和31年(1956)4月15日付けの毎日新聞に「古墳(二子塚)篤志家に譲りたし」との広告が出されたことから、北野耕平ら河南高校考古学クラブが記録のために測量調査を行い、その成果より2基の方墳が連なる双方墳としました。この調査により、二子塚古墳は全国的にも珍しい双方墳であり、蒲鉾形の石棺から古墳時代終末期の姿を示すとして、昭和31年(1956)11月28日に国史跡に指定され、翌年には公有地化されました。しかし近年、墳丘や石室の劣化が進み、保存整備が必要となったことから、国史跡二子塚古墳保存整備検討委員会の指導の下、平成28年度から平成29年度にかけて内容確認調査を実施しました。その結果、開口している東墳丘石室内が床面まで良好な状態で保

存されていること、墳丘の北側と東側に区画溝、北側の溝の外側にテラスと地山削り出し斜面があることを確認しました。また南側では墳丘ないし古墳に伴う施設が広がっていた可能性を示す地山の段差を確認したことから、古墳の規模が拡大することが確実となり令和元年10月16日には追加指定を受け、太子町がその範囲を公有地化しました。

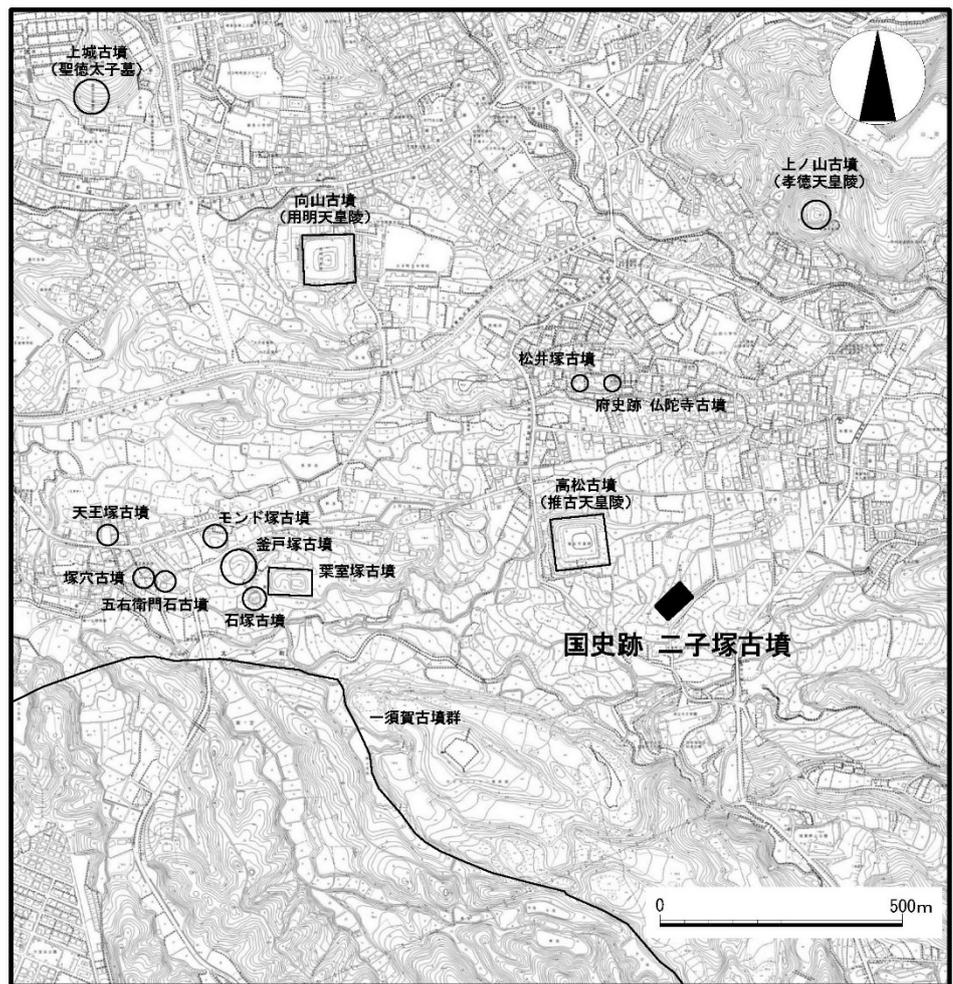


図2 二子塚古墳の位置図

3. 発掘調査の概要

1) 第3次調査 (平成31年度)

① 東墳丘石室前面 (2019-1区)

石室前面の閉塞石と墓道の状況、墳丘構造の確認をするため、調査区を設定しました。結果、閉塞石 (写真1) と墓道 (写真2) の規模と構造が確認できました。墓道は、短い羨道から一旦幅広になり、先端付近で玄室幅にすぼまる平面形で、先端は失われるも残存長4.4メートル、先端部幅1.6メートルの規模でした。石室前面の墳丘は、断面 (図3・4) の観察から2段階の盛土で構築され、地山上に下位盛土を行った後、墓道を掘削し埋め戻して上位盛土を行っていることを推定できましたが、墓道の肩と掘り込んだ下位盛土の土層については、この調査では明らかにできませんでした。



写真1 東墳丘石室閉塞石 (2019-1区)



写真2 東墳丘石室墓道断面 (2019-1区)

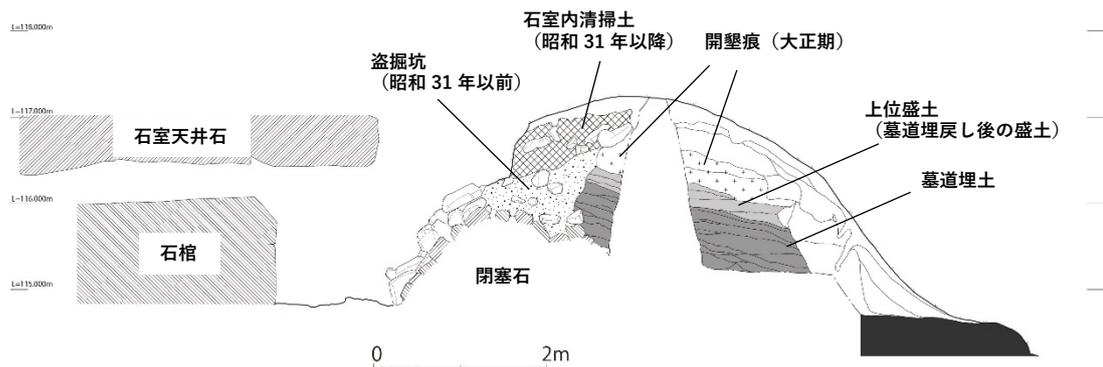


図3 東墳丘石室閉塞石断面図 (2019-1区) : 2020-1の成果を基に土層を整理

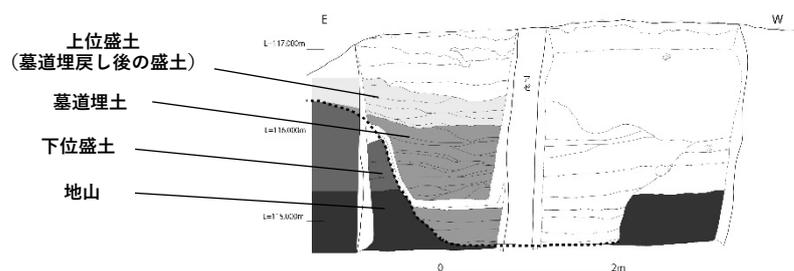


図4 東墳丘石室墓道断面図 (2019-1区) : 2020-1の成果を基に土層を整理

② 西墳丘北東部 (2019-2区)

西上段墳丘北東隅角部と中央部土壇の関係を確認するため、調査区を設定しました。結果、方形の上段墳丘の北東隅角部(写真3・4)を確認でき、一辺は少なくとも15メートルに及ぶことが分かりました。また、断面の観察から西墳丘盛土と中央部土壇盛土が同時に構築されていることが確認でき、中央部の高まりは古墳築造当時のものと確認できました。



写真3 西墳丘北東隅角部 (2019-2区)



写真4 西墳丘北東隅角部 (2019-2区)

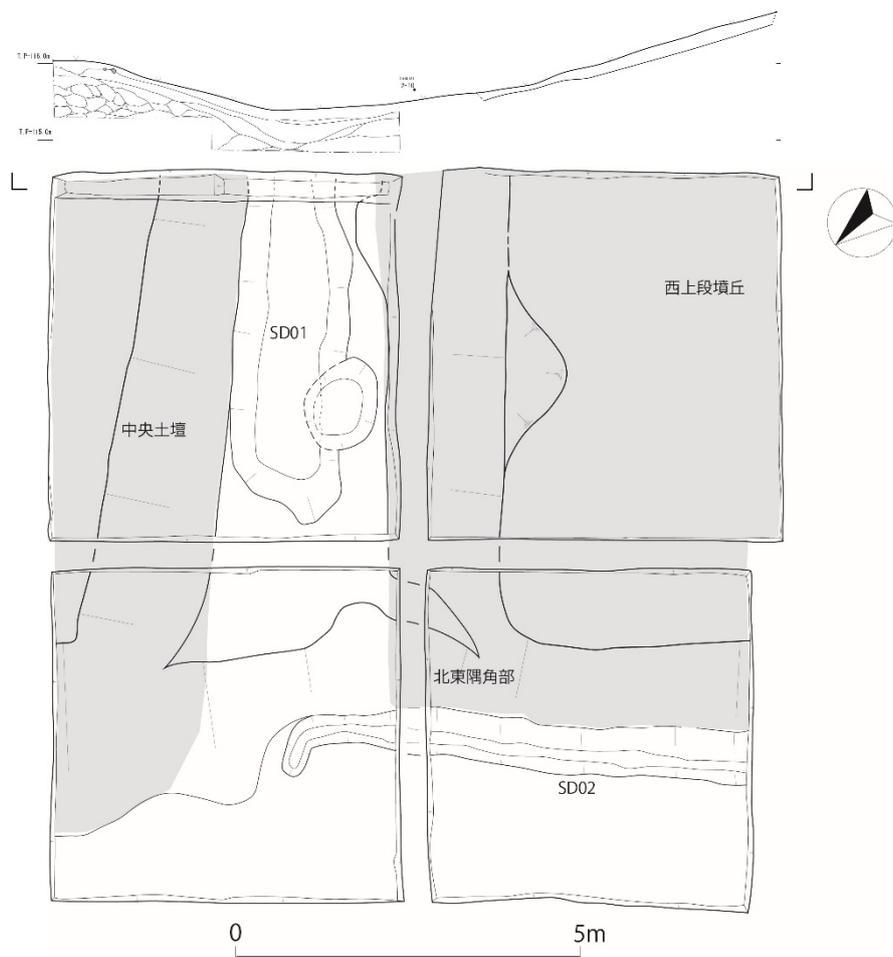


図5 2019年度調査区平面図 (2019-2区)

2) 第4次調査 (令和2年度)

① 東墳丘石室墓道 (2020-1区)

第3次調査で確認できなかった、墓道と石室前面の2回の盛土の関係を確認するため、墓道の西壁にトレンチ調査を行いました。結果、墓道の肩と掘り込んだ下位盛土の土層が確認できました。下位盛土上から墓道を掘削し、埋め戻して上位盛土を行っていることが確認できました。墓道と2回の盛土の関係が明らかにできたことは、墳丘・石室と埋葬の手順について考える貴重な成果です。

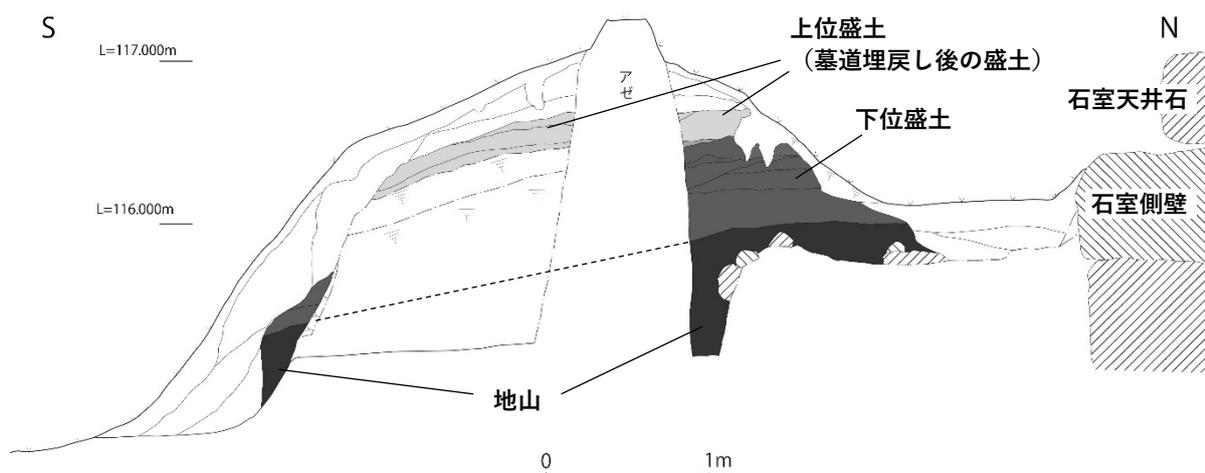


図6 2020-1区の結果を基に整理した東墳丘石室墓道西壁の墳丘盛土の状況

② 東墳丘石室西側 (2020-2区)

石室西側に位置する大型石材の形状を確認した結果、東石室羨道部先端の天井石が転落したものである可能性が高くなりました。(写真5・6)。また、石室横の大きな攪乱坑は大正時代初期以前のもので、墳丘盛土と地山の粘土層を大きく掘り込んでいました。かつて、住宅の壁土やカマドを作るため行われた土取りの跡です。



写真5 東墳丘石室西側トレンチ (2020-1・2区)



写真6 東墳丘石室西側トレンチ (2020-2区)